

第2回 開催報告

出席者

【委員】

出席者：黒田晃司、永谷嘉規、永井明子、小林智尚、水内智英、
谷口清治、齊藤公彦、柴田永治

欠席者：なし

（順不同、敬称略）

【事務局】

町長 渡邊公夫

総務部長 寺本公行

企画調整担当参事 葛西孝啓

企画課 各務元規 高木雅春 川上敏弘

次 第

1 開会

2 町長あいさつ

3 【報告】

（1）子育てに関する調査結果について

（2）若手職員政策検討プロジェクトチーム 第1回会議報告

（3）地方創生先行型交付金 上乗せ交付事業について

4 議題

御嵩町の「ひとが元気！」の戦略施策について

～子育て支援・教育施策を中心に～

配布資料

○次第

○みたけ創生有識者会議委員名簿

○資料1 子育て世代への意見聴取【結果報告書】

○資料2 若手職員政策検討プロジェクトチーム第1回報告書

○資料3 地方創生先行型交付金 上乗せ事業一覧

○資料4 資料4-2 第1回みたけ創生有識者会議報告書（議事録）

○資料5 資料5-2 総合戦略施策検討資料等

資料6 御嵩町総合戦略素案

参考資料 人口移動の状況、統計からみた近隣市町資料

会議で出た主な意見

▶ 御嵩町の魅力のPRと情報発信について

▶ 町内企業のPR、情報発信

○「御嵩町には働く場がない」という意見が多く出ているが、実際には町内企業での町内雇用者の割合が少ないというギャップがある。

○町内企業に関する情報提供が十分でないことが課題となっている。工業団地と一般住民の接点が少ないことから、工業団地の人々がPRをしようと思ってもなかなか伝わらないのが現状である。口コミで情報が広まるよう、日常の世界で接点を持てること。週に2回の休日に、可児市や名古屋市に行かず、地元にお金を落としてもらえるような施設等ができること。

○広告の分野では「インターナルブランディング」と「外に向かっての情報発信」の2つを分けて考える。最近では、「大企業に勤めたい」というよりも、「小さい会社やベンチャーでもよいので、活躍の場があるところをめざしたい」といったモチベーションを持つ学生が多いので、町内のベンチャー企業があれば、それを宣伝していくのも一つの戦略である。

▶ “オリジナリティ”の発掘と、世界への発信

○中部地方は住みやすい土地であり、地元から出ていけない人も多いが、むしろ学生には「外に出て武者修行をし、最後に帰ってこい」ということを伝えている。人が動きやすい時代になっているからこそ、魅力ある、特徴ある施設をつくって、御嵩町内だけでなく外からも人が流れるようなまちづくりができるとよい。

○通信が発達しているなか、「東京じゃなくても」「名古屋じゃなくても」といったところがどんどん現れてきてよいと思う。

○地域が固有な価値を持っているからこそ、世界で通用する時代になってきている。御嵩町にしかないものを発掘していくことで、一気に世界とつながっていく可能性のある時代である。

○「御嵩町のオリジナリティは何か」を考えると、「一番大切なものは何か」というところにつながる。そこにしかないもの、ナンバーワンよりオンリーワンということに尽きるかと思う。ただし、無理をして首をしめるようなことにならないようにする必要がある。

▶ 観光振興について

▶ 誘客層ターゲットを明確にする

○岐阜県では、宿泊客を増やすことが課題であり、特に「女性」をターゲットとしてキャンペーンを行ってきた。年齢を限定して女性のメルマガを送ったり、より読んでもらいやすいよう女性誌に特集を組んでもらったりした。また、女性は「イケメン」が好きであることから、各市町村のイケメン職員によるまちの紹介冊子なども作成した。

▶ 体験型・交流型の観光

○学生に限らず、30歳代などでもそうだが、旅行にいったらスランプリーのように名所をまわるよりも、その地域の人たちがどのような生活をしているのか、どのようなものを食べて、どのようなお祭りをやっているのか、地元の人たちに溶け込みたいという欲求が高まっていると言われている。

○「ゲストハウス」という、交流スペースが充実した形態の宿泊施設が注目を浴びているため、御嵩町でも運営がはじまると、また変わってくると思う。

▶ 子どもの教育について

○中学校、高校に行った団塊で、どの程度の企業に勤め、どの程度の人生を送れるのかを、親が先にイメージをしてしまっているのではないかと。子どもたちは、自分たちで考えて将来を決めるという教育を受けているように思われるが、「認められる」「褒められる」といったことがないとなかなか育たないようになってきている。

○「褒められたい」を勘違いし、犯罪につながってしまう場合もある。親も「成功体験をさせてほしい」という風潮にあるが、失敗の中から学ぶこともあるということを理解してもらえると教育の質も変わってくるし、若い世代の人たちが少しのことで仕事を辞めてしまうことも減っていくのではないかと。

○教育に力点を置くにあたり、成績をあげるだけでなく、覚えたことを「使う」能力を育むことも大切にしている。東濃高校は、ロボコン部が頑張っており、毎年世界大会へ行くレベルである。ただロボットを製作するだけでなく、それをどう入力し、どう動かすかという柔軟性が育まれるため、そういった部分も大切にしたい。

○若い世代は「楽しい」ことを大切にしていると感じる。「楽しい」部分を大切にしつつ、「楽しい」をはき違えることのないような教育が必要である。